

第2回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会 審議内容メモ

日時：平成16年 9月28日(火) 9：30～11：30
場所：独立行政法人水資源機構中部支社 会議室
出席者：松尾直規委員長、入江洋樹委員、高須修二委員、八嶋 厚委員
加藤明司顧問、小柳 洽顧問
関係県市担当者12名
事務局（水資源機構職員26名）

配布資料

- ・第2回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会 議事次第
- ・第2回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会 出席者名簿
- ・第1回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会 審議内容メモ (資料 - 1)
- ・コスト縮減策の検討経緯 (資料 - 2)
- ・コスト縮減策の検討結果 (資料 - 3)
- ・コスト縮減策の概要 (資料 - 4)
- ・コスト縮減策の実施状況のフォローアップの進め方 (資料 - 5)

審議内容

1. 第1回委員会の審議内容の確認
 - ・第1回委員会の審議内容について、審議内容メモにより確認した。
2. コスト縮減策の検討経緯
 - ・平成16年4月以降、ダム本体、管理設備、付替道路の各ワーキンググループを計16回開催し、次のような視点から、コスト縮減策の検討を行ってきたことが報告された。
 - ・試験施工等を踏まえた新技術・新工法の導入
 - ・大型施工機械の導入、試験施工等を踏まえた施工計画の見直し
 - ・既施工実績、現地状況等を踏まえた設計の見直し
 - ・施設としての機能や安全性の確保等を前提とした管理設備の簡素化
 - ・他機関の道路工事における仮設の実績について詳しく調査した結果等を踏まえた積算方法の見直し
 - ・試験湛水開始に至るまでの工事工程の短縮
3. コスト縮減策の検討結果
 - 1) コスト縮減策の検討結果
 - ・徳山ダム建設事業では、変更事業費3,500億円の算定にあたって縮減を図ることとした78億円の縮減に向けたコスト縮減策の検討を行うとともに、さらなるコスト縮減策について検討を行うこととしている。これらに向けて、新たな契約方式（技術提案付価格合意方式）の導入によるコスト縮減額（約5億円～約7億円）、工事、調査等の予定価格と入札価格との差額（約33億円～約38億円）、各ワーキンググループにおいて検討を行った新技術・新工法の導入、

施工計画の見直し等によるコスト縮減額（42.3億円）とを合わせると、現時点で約80億円～約88億円の縮減が見込まれることが確認された。

2) コスト縮減策の継続した検討

- ・ 新たな契約方式として、技術提案付価格合意方式以外の契約方式について継続して検討を行っていくこと、引き続き、各ワーキンググループにおいて、試験施工、既存データの解析等に基づく技術的な検討を継続して行い、設計の見直しなど、徹底したコスト縮減策の検討を行っていくことが確認された。なお、今後のコスト縮減策の検討にあたっては、安全性、耐久性、信頼性等の確保に十分配慮するとともに、施工結果を逐次施工管理に適切に反映させていくことによりコスト縮減に努めていく必要性が指摘された。
- ・ これらのコスト縮減策に加えて、水資源機構独自に事務的経費の節減、設計業務等の機構直営化による事業費縮減等に努めていく旨が報告された。

4. コスト縮減策の実施状況のフォローアップの進め方

- ・ フォローアップとして、検討したコスト縮減策が実際の工事、契約等に適切に反映され、想定したコスト縮減効果が得られているか検証を行っていくことが確認された。
また、各年度ごとにコスト縮減状況の取りまとめを行い、翌年度当初の委員会に報告していくことが確認された。
- ・ フォローアップの過程においても、継続して、各ワーキンググループにおいて、徹底したコスト縮減策の検討を行っていき、取りまとめ次第、委員会において審議を行うことが確認された。
- ・ 徳山ダムにおけるコスト縮減の成果については、他ダム事業のコスト縮減策に反映させていくためにも、適切な取りまとめを行うべきであるとの指摘があった。

（以 上）